

政務調査研究視察 報告書

日程：平成21年1月13日（火）～1月15日（木）



1月13日
曾於市役所
「過疎地対策について」


1月14日
南さつま市役所
「自治会の再編について」



1月15日
福岡市民会館
「新文化会館整備について」

視察参加者：田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一
神谷寿広、吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年1月13日 (火)	
視 察 内 容	曾於市の「過疎地対策」について	
視 察 者	田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一、神谷寿広、吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太	
鹿 児 島 県 曾 於 市	<p>曾於市の概要：2005年7月に大隈町・財部町・末吉町の曾於郡3町が合併して誕生。面積390.39k㎡ 人口43,333人 財政力指数 0.29。</p> <p>大隈半島の北部にあり宮崎県との県境に位置する。北部は大隈川流域に開け都城盆地の一角をなし、南部は菱田川流域に広がり全体的には起伏の多い台地となっている。基幹産業は農業で、全国有数の畜産の産地が形成され食料供給基地となっている。県内他都市よりも、隣接する宮崎県都城市との結びつきが強く、同市への通勤・通学比率(05年)は15.3%・20.6%である。</p> <p><過疎地対策について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域振興住宅の提供に至る経緯について 今後人口の減少と高齢化の進行が続くことが予想され、人口増加対策として市外からの定住の促進を図り、特に市街地以外における、地域活性化に寄与することを目的としている。 ・ 地域振興住宅の提供の実施状況について 合併まえに、旧町において農村部に活性化住宅等を43戸建設してきた。今回新しく市内全域を対象し10戸の地域振興住宅入居募集をした。 ・ 地域振興住宅の提供の効果について 今回入居募集に対して22名の応募があり、入居者選考審査の結果、市外在住の10名の入居予定が決定している。 ・ 過疎地対策としての地域づくりの取り組みのについて <p>「定住促進支援事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定住住宅取得補助金： 市外からの転入者が、定住を目的に住宅を新築もしくは中古住宅を購入した場合に新築住宅には30万円、中古住宅には20万円の助成金を支給する。 ○新規就農者支援事業： 18歳以上おおむね40歳以下の新規就農者に対して生産技術や農業経営の習得を図り、地域農業を支える人材の育成を目的に毎月5万円から15万円(2年間)の補助金を支給する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の事業展開と課題について 10年後の曾於市が、住んで良かったと思えるまちであり、そこに住む市民はもちろん、市外から転入する人々にも、曾於市が魅力あるまちであることが重要である。 	
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>市外からの定住希望者に対し、新築賃貸住宅の供給や、住宅を新築又は購入した方への補助など積極的な取り組みがなされており、また、義務教育中の子どもがいること又はその見込みがあること、自治会に加入し地域行事及び活動に積極的に参加できること、などの条件をつけることで地域の活性化が図られている。本市としても人口減少地域において、活力ある生活環境等を保持していく為に学ぶべきところであると感じた。</p>	

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年1月14日（水）
視 察 内 容	南さつま市の「自治会の再編」について
視 察 者	田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一、神谷寿広、吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太
南 さ つ ま 市	<p>南さつま市は2005年11月に加世田市・笠沙町・大浦町・坊津町・金峰町の1市4町が合併して誕生。面積 283.35 k m² 人口 41,677 人 財政力指数 0.28。</p> <p>薩摩半島の南西部に位置し、リアス式海岸や吹上浜砂丘など変化に富んだ海岸線を有しており、吹上浜の「砂の祭典（サンドクラフト）」や自転車の町づくり「サイクルシティ」として知られる。また「薩摩の論語」といわれる「いろは歌」でも有名。</p> <p>＜「自治会の再編」について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化対策としての自治体再編について <p>269自治会中、30戸未満の自治会が58。高齢化率50%以上が77自治会。標準自治会の設定と再編促進の基準をもうけていた。</p> <p>（50戸未満の寿需要促進地域と80～80戸の促進地域）</p> <p>その他に合併補助金（行政食卓費を5年間は支給）や再編支援アドバイザー制度と自治会基盤整備補助金などで再編を支援している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域げんきづくりサポーター制度の概要と効果について <p>小学校区単位に元気づくり委員会を設置し、市職員による元気づくりサポーターとして配置。元気づくりプラン（市の総合計画の小学校区版）を策定し計画にそって地域事業を実施している。</p> <p>財政面では計画策定補助と事業補助で市が支援している。</p>
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>自治会再編については、自治会の標準規模を設定し、それに向けて促進地域を指定し再編を推進していく手法は参考にしたい。</p> <p>また、地域元気づくり事業については、ちょうど岡崎市の学区社教委員会と学区福祉委員会を併せたような組織である。その委員会において、市の総合計画の学区版といえる元気づくりプランを策定し、地域の活性化を推進しているところは、岡崎市としても参考になるところである。</p>



▲講習風景



▲学区ごとの元気づくりプラン

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年1月15日 (木)
視 察 内 容	福岡市の新文化会館整備について
視 察 者	田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一、神谷寿広、吉口二郎、加藤義幸、築瀬 太

福岡県福岡市

福岡市の概要：福岡市は、人口 1,401,279 人、面積 340.60k m²の政令指定都市である。

中国大陸、朝鮮半島に近い九州の中核都市であり、古くから大陸文化の受入窓口としての機能を発揮し、アジアの交流拠点都市として多様な取り組みを展開してきた。

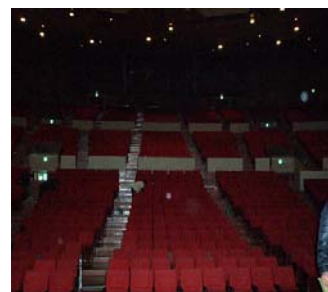
博多湾の人口島「アイランドシティ」では、港湾機能や IT、健康、医療、福祉、環境など高度な都市機能を集積し、国際ビジネス拠点の形成が進む都市である。2011年には九州新幹線全線開通を契機とした博多駅地区の九州、アジアの玄関口にふさわしいまちづくりに取り組んでいる。

<福岡市民会館について>

福岡の中心地から近い便利な場所に位置し、大・小ホール、会議室を備え、数多くのコンサートや演劇、講演会などの催しものに利用されている。



所在地	福岡市中央区天神5-1-23
設置者	福岡市
会館日	昭和38年10月25日 (築45年)
規模	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建て
面積	敷地 10,552 m ² 、建築 3,620 m ² 、述べ床 9,255 m ²
施設概要	大ホール 1,770 席、小ホール 354 席、練習室 4 室



○指定管理について

<現行>

指定管理者	(株)福岡市民ホールサービス
指定期間	5年間 (平成21年4月1日から平成26年3月31日)

募集方法	公募	制度導入時期	平成18年度
------	----	--------	--------

○利用状況

区分	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	利用率	利用人数	利用率	利用人数	利用率	利用人数
大ホール	76.7%	346,143	79.2%	317,774	78.5%	413,307
小ホール	24.1%	18,381	26.7%	22,622	25.2%	17,078
練習室	49.6%	49,210	58.4%	50,730	62.3%	56,657
総計		413,734		391,126		487,042

[感想・岡崎市への反映]

築後45年経過しているにもかかわらず、高い稼働率を維持し年間40万人の入場者があると聞いて驚きを隠せなかった。(本市、市民会館も築後41年と経過年月も同様に近い)

管理運営は指定管理者、(株)福岡市民ホールサービスに委託し施設の見直し運営に力を注いでいる。特にバリアフリー、環境整備においては、身障者用車椅子席をはじめ専用リフト入館入口、階段の手すり、会場内の各施設においても万全な整備がなされていた。

今、本市では、市民会館の老朽化が進み検討が急がれている。市民の文化発信地としての役割をどう担って行くのか、指定管理者である岡崎パブリックサービスの協力を得て、市民の声、要望を聞き、市民の会館として大いに役立たせたいものであると感じました。